

会 議 報 告 書	
会 議 名	令和6年度 第2回草津市社会教育委員会議
日 時	自 9時30分 令和6年11月24日(日) 至 12時00分
場 所	矢倉まちづくりセンター 大会議室
出 席 者	委 員：四方委員、木戸脇委員、柴原委員、茶木委員、 駒村委員、奥井委員、岡田委員、香川委員、 出呂町委員、山崎委員、則武委員、望月委員 事務局：藤田教育長、岸本部長、 生涯学習課 古川課長、山田課長補佐、河合主事、平塚主事 傍 聴 人：0名
会議関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有（別添のとおり） <input type="checkbox"/> 無

## 1 教育長挨拶

### 【教育長】

皆様おはようございます。

今日は休日にもかかわらず皆様には御参加を賜りましてありがとうございます。

この10月、11月は地域でいろんなイベント行事がたくさんございまして、多分熱中症の関係もありまして、学校の運動会も9月から10月が主流になってきたなというところ、おそらくいろんな行事がこの10月、11月に後半に集中しているのではないかという声がございまして、私もほぼ土日どこか仕事で出ているという風な状況でございます。そういった中で、各地域では特に子どもたちとも顔を合わせる機会が非常に多く、いろんな体験や友だちと遊んでいるという姿を多く拝見させていただいております。

そのおかげといいますか、その下支えをしていただいているのは地域の大人の方々でございまして、そういった下支えに対しまして改めて心から感謝をしていきたいなという風に思っている次第でございます。

ただ、社会教育委員会議のテーマとしておりますように、地域をいろいろ見させていただくと、やはり地域の担い手の方々の今後どういうふうに継続していけるのか、見ておりますと高齢化もしているなというようなこともお見受けをさせていただいておりますので、こういった地域のいろんな事業イベント等も含めまして、どのように今後持続可能にしていくのかということがやはり今求められていることではないのかという風に改めて感じたところでございます。

担い手不足に対してこの社会教育委員会議でも、こういった方策をとるのかということ

を議論していただくということでございますので、そういった議論も参考にさせていただきますながら、これからも草津市がそういった持続可能で地域で地域活動が充実され、なおかつもっとその地域でいろんな人作りをされるという市になっていくための御協議をこちらでしていただいているんだということを改めて感じているところでございます。

本日の会議では、B委員の方からは松原中学校のESDの取り組みを紹介をしていただきますのと、この矢倉学区の手作り給食事業を御視察をさせていただいてから、今後の地域における地域協働学校のより良いやり方について、またいろいろ皆様から御検討いただき、忌憚な御意見をいただきながら、今日活発な議論をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますけれども開会にあたりましての御挨拶をさせていただきます。本日もどうぞよろしくようお願い申し上げます。

---

## 2 本日のスケジュール、前回の振り返り【資料1～資料2】

---

### 【事務局】

(資料1・2説明)

---

## 3 松原中学校のスクールESDについて

---

### 【B委員】

(資料3説明)

---

## 4 矢倉学区の地域協働合校について

---

### 【BohNoの方(手作り給食事業内)】

(地元への愛着と興味を持ってもらい、地産地消への意識を高めてもらうことや、自分の身の回りで起こっていることに関心を持ってもらうことを目標に、近江米の魅力・米不足についてスライドを用いて説明。  
ワークシートも配布し、参加者にワークシートの問題を解きながら説明することで、参加者の理解を深める工夫もされていた。)

### 【事務局】

皆さん視察をいただきましてありがとうございました。

この後詳細な説明ということで矢倉まちづくりセンター長からお話をお聞きするんですけども、最初の御説明していた予定ではその後調理の視察に入らせていただくことになっていたんですが、調理の時間帯が予定よりずれておりますので、調整の方は視察は省かせていただいて、振り返りに入らせていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

【矢倉まちづくりセンター長】

(資料4・5説明)

---

議事4)の質疑応答

---

【委員長】

センター長、ありがとうございました。

ただいまの説明内容について、御意見、御質問がございましたらよろしくお願ひします。

【I委員】

今日のご飯やお米の教育ということで、お父さんやお母さんが来られていて、親子で参加というのは良いことだと思いました。これまでまちづくりセンターに来たことがない方でも、今後また来てみようかなということになり、ほかにもいろいろと取り組んでおられるので、保護者の参加OKというのはとっても良いことだとは思いますが、そんな中でも全く関係のない大人の方がお一人で来られたようなことはあるんですか。

【矢倉まちづくりセンター長】

今のところそうやって来られる方はありません。ただ、参観と言いますか、見学の希望はあります。

だから基本としては、そういった方はどうぞという感じで来ていただいています。ただ、大人が参加したいというのは今のところ無いです。

【I委員】

その見学を希望する方の目的は何なんでしょうか。

【矢倉まちづくりセンター長】

こういう事業に関心のある方が事業の中身を見たいな、というところでの見学でした。

ただ見学でも色々ありまして、地域でやっている、今はたまたま子ども事業ですけども、例えば風景の記憶絵とか、例えば屏風の記憶絵を作って置いてあげたりしますけれども、あのあたりの見学は、しっかりと目的を持って滋賀県立大学の先生の指導のもと作っていますので、その先生の御紹介で例えば彦根であるとか、他の地域から何人か固まって来られることはあります。その見学ははっきりと目的を持って来られますが、そうでない場合も何件かあります。

【委員長】

親が参加することで、次の担い手になっていただける方に来ていただけるという利点は

あると思うのですが、一方で御家庭の状況も色々で、子どもさんだけでも参加できるということも私は大事だと思うのですが、親子を強調することで子どもが単体で来るケースが減ることは得に無いんですか。

#### 【矢倉まちづくりセンター長】

親子参加 OK にしてますけれども、子どもたちだけでも来てます。

例えば来月 25 日にあります習字道場はほぼ子どもだけです。

全部親子参加可にしてますけれども、ものによりましたら子供たちだけで来る場合もあります。例えば 4 月か 5 月にありますミニ四駆教室は 3 分の 1 ほどは子どもたちだけで来ます。小さい子たちはやっぱり上手いこと作れずお父さんお母さんが手伝いたいという思いがあるので親子で参加されますが、やっぱり友だちだけで行きたいという子たちもいるので、3 年生以上は子どもだけで来られます。防災キャンプも募集をかけるとすぐ定員になるので、去年やった子たちは今年も来たいと言って友だちを誘って人数を重ねるようになっていったので、ほぼ子どもたちだけですけれども。あれも子どもたちだけでグループを組んで早く埋まってしまうというような状況ですので、たぶん親子で参加 OK にしたところで、親子が強調されすぎるということはあまりないのかと。

子どもたちも今小学 3 年生を超えると、子どもというよりかは考え方はもう大人と何も変わりません。しっかりしています。やっぱり子どもたち同士のコミュニティもしっかり持っていますので、そういう意味では親が来てほしくないときははっきりノーと子どもたちは言っているんだろうと想像しています。

#### 【C 委員】

地域の取り組みだと、よく子どもを対象とした事業をすると、親御さんも一緒についてきて、というイメージがあって、実際そういう風なものがあると思うのですが、例えばミニ四駆教室みたいに親御さんがやりたいことを親子で参加してやるという発想がすごく逆になっていて面白いなと思っています。例えばミニ四駆教室は元気な子ども育成推進部会さんがされたと思うのですが、あまり出てこない発想ではないかなと思うので、どういった過程でそういう企画になっていったのか、教えていただきたいです。

#### 【矢倉まちづくりセンター長】

元気な子ども育成推進部会ができた当時は子どもの場づくりをまちづくりセンターでできないかということで、まちづくりセンターをお借りして、月 1 回は子どもが自由に使えるようにさせてほしいということで、月 1 回子どもの日を運営していました。ところが 1 年半くらい続けて第 3 水曜と日を決めて小学校にも案内してやっていたんですけども、子どもたちに自由に使って良いよと言っても最初は宿題をしに来たりとかする子もいたんですけども、だんだん減ってきて、子どもたちも目的が無いときと来ないんだなとい

うことが1年かけてわかりました。

そのときに、来ていた子どもたちに何かしたいことある？って聞いたら、特に意見はなかったんです。

そのようなときに、他の地域でミニ四駆の教室があると聞きまして、それを1回まちづくり協議会でさせていただいたらどうなのかなと。結構お金もいりますし、それからコースも子どもたちが走らせる場所がないということだったので、させてもらうんだったら公式のコースも買ってほしいということで、まちづくり協議会にお願いしてミニ四駆の車走らせるコースも買いました。その準備をして、募集を小学校にかけたら、すごくたくさん募集が来て、目的がはっきりすると来るのかなと思っていました。

ところが、始めてみて、お母さんお父さんの参加が多かったんです。特にお母さんがなんでそのミニ四駆の教室に参加されるのかなと思って見ていましたら、始まったらとにかくドライバーとかニッパーとかを持って一番一生懸命やっているのはお母さんなんですよ。お母さんってこういうことされるのか、興味があったのかなと。最初は、お父さんがされるのかなと思ったんです。ところがお母さんが一生懸命で、すごいなと思ったんです。お母さん方に聞いてると、今までそういう機会が無かったからしなただけで、やってみたかったけどもそういう場が無いとおっしゃっていました。結局小学校行っておられる子たちのお父さんやお母さんと言いますと、20代後半から30代半ばぐらいまで、あとは中学校になると思うんですけれども、それぐらいの年齢の保護者の方が子どもだったときにしたかったこととかを提供していったらもしかしたら上手いこと楽しんでもらえるんじゃないかなというのが元々の発想の始まりでした。

今子ども食堂をさっきの元気な子ども育成部会でやっています、年明けの1月に毎年ケーキを作るんです。クッキングスクールというのを子どもも一緒にやるんですけれども、第1回目はお鍋で焼けるスポンジケーキっていうのをやったんです。どんだけ来はるかなと思ったら結構来はったんです。次の年、今年の1月は電子レンジで簡単にできるスポンジケーキをやったんです。2回目やらしてもらったときは、なんとお父さんがいっぱい来るんですよ。お父さんが一生懸命パウンドケーキを作るんです。

我々は発想が古いのかもしれないけど、これは女性が好き、これは男性が好きとかいうイメージがありましたけれど、そうじゃなくて機会が無かったからできなかつたけど、子どもと一緒にやったら今までできなかつた世界も一緒に見ていけるのかなというのもありました。そういうことをしているうちに振れ幅広く色々な方が来ていただけるようになったので。一番その中で私が感心したのが、さっきのミニ四駆を一番最初にやらせてもらったときに、親子でも初めて来はった人ばかりでしたが、でもお母さん同士お父さん同士相談して、これできた？とかこんな風にやったらできるんちゃう？とか言って、3、4人でグループできて他人同士相談し始めはったんです。子どもたちも1年生から5年生くらいまでもうバラバラなんです。バラバラで2~30人集まるんです。そうすると、お母さん方もバラバラ、地域もバラバラなんですよ。そういう方々が結構子どもを介しては喋りはる

んです。こうやって知り合いもできているのかな、というのを実感しましたので、これは担い手不足と我々は思っているけれど、担い手を探さきれていないだけかなと。担い手というのは地域のコミュニケーションの中から生まれるものであって、こういう部会があって、ここが人が足らんから来てくれませんかという募集の仕方してもきっと誰も来てくれない。子どもと一緒に何か色んな事業をしているうちに親子で喋ってて、もっと他の人も手伝わなあかんよねという意識を持ちはったら、自然と人が集まってくるんじゃないかと。

今道半ばとかスタートしたところですので、これが5年先10年先にどう実を結ぶかわかりませんが、野菜でも土を作るのが一番大事やということですから、そういう環境を我々が作って、担い手になってほしいというのではなくて、担い手になれる環境を作らなければいつまでたっても前に進まへんのかなというのが実感でした。

私こういうところへ飛び込ませていただいてまだ日が浅く経験も浅いので言えるのかもしれませんし、この事業につきましては、いわゆる常識というのも私ははっきりわかっていませんので。ただ、普通に考えてきっとそうなのかなと思ってやってみたのが、今たまたま実を結んで上手いこと回っているのかなという風には感じています。

**【委員長】**

その他御質問ございますか。よろしいですか。

では、センター長ありがとうございました。

---

5 振り返り・まとめ

---

**【委員長】**

そうしましたら、次の議事事項の(4)振り返り・まとめについて、事務局から説明をお願いいたします。

**【事務局】**

(視察シートに沿って御意見いただきたい旨を説明。)

**【委員長】**

ただいま、事務局より説明のありました通り、今期の社会教育委員会議は、「今後の地域協働合校の展開について」をテーマとし、特に地域における地域協働合校において、「自ら考え、行動できる人材の育成」などをどのようにしていったら良いかななどを検討していこうというものです。

そこで今回、実際に地域の地域協働合校の事例も見たわけですが、視察シートの1つ目「地域において大人と子どもが課題解決型の学びに取り組むにはどのような要素が必要か」については皆さん、どのように考えられているか御意見いただきたいと思っております。

ども、いかがでしょうか。

**【F 委員】**

今日見させていただいて、良いなと思ったのが、やっぱりしっかりとお米の勉強を先にされるといところで、学生さんが必ず1人子どもさんの横についているのがすごく良いなと思いました。学生さんが前にだけにはいたら、子どもたちみんなぼーっとして聞いているのかわからないという感じみたいだったけど、前で話している講師の先生が言ったことももう一度噛み砕いて横の子どもたちに一緒に説明して一緒に考えていくやり方ってすごく良いなっていう風に思いました。

だから小学校での地域協働校の取り組みでも、色んな講師の人に来ていただいたり、色んなことを始めるにあたっての説明のときに、横について一緒に話を聞いてあげたり、一緒に子どもと考えてあげることが、すごく子どもにとって身につくことかなと思いましたし、このやり方素敵やなという風に私は思いました。

**【委員長】**

参加している子どもさんにきっちりついて、一緒にやろうという考え方が大事なことですね。他何かございますでしょうか。

**【J 委員】**

今日見させていただいて、課題解決型の学びに取り組むには、といところで、今日 BohNo さんがされていたように、インプットで伝える・教えるだけでなく、クイズ形式でやることによって、大人も答えを考えると、子どもと一緒に考えている過程で、すごく学びに繋がっているんじゃないかなと思ってすごく良い形でされているなと思いました。

**【委員長】**

上手く子どもさんが考えやすいような質問と内容を大分工夫されていましたよね。他いかがでしょうか。

**【E 委員】**

今もおっしゃっていた通りなんですけど、学生さんのスタイルはすごく良かったなと思いました。やっぱり子どもって親御さんいはいはるけど不安なところがある。それと今説明されている方が学生さんなので、それと同じような感じで横に学生さんがいはるということで安心感があるのかなというのと、なんせその興味を持てるテーマ、それをいかにするか、興味の無いようなテーマではなかなか子どもたちもついてこないし、基本的に先ほどおっしゃっていた地産地消というテーマがあって、それをどういう風に選んでいくかとい

うことがまず第一テーマじゃないかなと思って、それがすごく上手く動いてたんじゃないかなと思います。

ただ、気になったのが会場のこともあるんですけど、少人数でされてますよね。多分もっとたくさん申し込んでいる方がおられると思います。私たちの地域はすごく応募が来どどのようにしてお断りするか悩むので、申し込みがたくさん来た場合にどのようにされているのかなという風を感じました。以上です。

**【委員長】**

つまり、本来はもうちょっと人数が多いはずではないか、ということですね。それは定員が設けられている関係もあるのでは。

**【E 委員】**

定員を今見ていたら9名と書いている。すごく少ない。会場のこともあるし調理のこともあるかもしれない。そこに親御さんがついてこられると結構な人数になってしまうからということがあるかもしれないけど、私たちの地域はこういうことするとすごく応募が来るので、どのようにお断りしようかなという風にいつも悩んでいる。興味のあるものとないで応募状況も全然違うんですけど、ちょっと人数が少ない。だから余計に目が行き届きやすいというのもあるかもしれないけど、その場合何か工夫されているのかなという風に思いました。

**【委員長】**

このあたりはどうでしょうか。

**【事務局】**

この事業も3年やっておられて、今回3回目になります。以前はコロナ禍でやっておられた事業で、定員10組ほどがすぐ満杯になる事業と聞いております。その中で、まだおっしゃられた課題については、どういう風にしていこうかということは聞いていないのですが、定員を増やす予定かどうか聞いてみます。会場スペースの関係であったり、コロナ禍で人を密にしてはいけないということの名残が残っているのかもしれないですが、詳細はまた確認させていただきます。

**【委員長】**

確かに手厚く見えるのは良いことなんですけど、大学生の方が多い。

**【E 委員】**

どうしても大人が多くなってしまふ。その中で、どうやって子どもたちが自分のやりた

いことを発見していくかというのは大事だと思うんですけど、せっかく良い企画なのでもうちょっと子どもさんが参加できて良いのではないかなと思いました。

#### 【委員長】

ありがとうございます。時間の方もありますので、次の二つ目、「大人が地域協働合校など社会教育活動に参画するためにはどのような工夫が必要と考えられるか」というところで、今日の視察ですとかB委員のお話も聞きつつ、大人が参画することの工夫について何か御意見等あればお願いします。

#### 【B委員】

私は、草津市に住んでいるのではないのですが、自分の小さい頃を思い出すと、地域の大人も子どもも一緒になって色んなことをやったと思うのですが、それが全体的に今の子どもたちには少ない。それを復活しないといけないと私は思っています。子どもの集まる場ばかりを考えがちですけれども、果たして大人同士が本当に住んでいる地域で繋がっているかというところが無い。それが無いのに子どもの集まる場ばかりを考えているのではないかと思って。1泊でキャンプに行くとか、泊まりを兼ねると大人同士がもう一回繋がるような良い環境ができると思うのですが、そのようなことをそれぞれの地域が復活させたら、それが基でまちづくりセンターの事業に参加していろんな交流が生まれると思いますし、もっと活性化するような気がします。

#### 【委員長】

先ほどセンター長の話を聞きながら思っていたのが、やっぱり子どもを媒介にして、親同士も繋がっていくみたいなことが上手く回れば、親同士の繋がりが今度地域協働合校の担い手に育っていくということで、B委員がおっしゃるように子どものことを考えるのももちろん大事なのですが、それをきっかけに親同士が上手く繋がれば良いなという話かなと思って聞いていました。

私自身もそうなんです、子どもが保育園の時は親同士の繋がりがあったんだけどやっぱり小学校以降全く無くなってしまったんです。

なので、ミニ四駆のように、子どもが参加したいと言っているから仕方なくという体で行っているけれど、実は親がやりたいから行って自分たちが楽しんでいるというのが理想なのかなとさっきの話を聞いていて思いました。

#### 【D委員】

私も小学生の子どもと中学生の子どもがいるので、現役世代というか親世代なのかなと思うんですけど、仕事としては保育の仕事をしていて、ここ数年非常に感じるのが、フ

ルタイムの女性が増えて、お母さんもお父さんも時間がない、私自身も今日はここに来て  
いますけれど、子どものスポ少や塾で日々忙しくしていて、一緒に参加できるのは月に奇  
跡的に1回というのが実情かなと思っています。でもさっき出ていたミニ四駆だったら確  
かにやってみたいと思うのが正直なところです。

BohNo が SNS やインスタで発信されている、まちづくりセンターの活動がインスタや  
SNS 関係で知れていたらもっと行く機会が多かったのではないかなと思います。市のアプ  
リや HP だったらこっちが見に行かないと知ることができない。小学校では紙で配られる  
ことが減ったので、親はスマホで見ることができるのですが、子どもたちが実際に行きた  
いと思うものは紙で見ることができないので、紙でもらってきたら行きたい行きたい  
言うのですが、今からでも子どもが目に触れる発信の機会が確保できると活動に参加し  
やすいのかなと思いました。

#### 【委員長】

従来型の連絡周知の仕方に加えて、やっぱり今時の発信の仕方を使っの工夫も必要と  
いうことですね。ありがとうございます。

#### 【G 委員】

自分が大学生なんですけれども、今日のセンター長のお話を伺って、テスト週間などを  
考慮していただけるのがすごくありがたいなと思ったのと、今日の BohNo さんは自分たち  
で企画してすごかったんですけれど、そういう人たちだけではなく、自分で企画するとい  
うよりも、そもそもある企画、まちづくりセンターの企画で全部準備してもらった企画に  
ちょっと参加したい学生の方が全然多いような気がします。なのでそういう学生が気軽に  
参加できるようなちょっと手伝うくらいのものであればいいし、そういうのに声をかけ  
ていただきたいとすごく思います。

#### 【委員長】

重要だと思います。みんながみんな前に立てる人ではないので。でも、ちょっとだけ椅  
子並べるくらいならできますとか受付くらいならできますっていう人、学生だけではなく  
て大人も色んな人がいるので、ちょっとだけでも手伝いをみたい、参加のハードルを下  
げてあげるとするのは非常に重要なことかなと思います。

#### 【委員長】

最後、3つ目にいただいているポイントが、自ら考え行動する人材を育成するためのポイ  
ント。いかがですかこちらに関わって御意見等ございますか。

#### 【I 委員】

今日は近江米の話がとっても面白かったのですが、子どもは「お米」と「ご飯」の関係が分かっていないやろうなと、ちょっと思っていました。お百姓さんというか農家さんの話で言うと、「農家さんが減ったらご飯が食べられないようになるよね」などと言ってしまくと、煽っているのかもしれませんが、自分が食べている「食」と、世界の「食糧危機」が繋がっていると話をすると、じゃあこれは自分が考えないといけないニュースなんやと、先ほどの B 委員のレジュメにもありましたが、我が事として考えられるようになる。「自分事」っていうキーワードがすごく大事だと思いました。今日のお話のように、参加者のお父さんやお母さんにも「そうだ、そうだ」と思ってもらえるよう、当たり前のことから考えていくと、「滋賀県のお米を食べないといけないよね」「農家さんのことも知る必要があるよね」というようなことに繋がって行く。これは小さなステップかもしれませんが、人材育成に繋がって行くのかなと思います。そこから先は難しいですけども・・・。

#### 【委員長】

たぶんこれ1つ目のポイントとも関わると思うのですが、やっぱり身近なこと、自分と関わりがあることを上手く題材に設定するということがすごく重要なことだと思っていて、同感ですね。B 委員のお話にもあったように、やっぱりグローバルな思考が良いんだけど、実は足元も大事だ。このベジクサに着目しているということと SDGs の二枚看板だから良いのかなという風に思いましたね。

#### 【B 委員】

藤田教育長がおっしゃっている話なのですが、学校は授業が当然中心ですけど教科以外の体験活動をいっぱい取ることで、子どもたちがしたことないような体験をどんどん積んでいける。地域も学校も大人が、子どもが体験できる場の提供をしていかないといけないなと思っています。うちの活動も、担当の先生が子どもの参画場所を考えてくれます。

#### 【A 委員】

大人でも子どもでも自分がしたことで、何かちょっと笑顔になってもらったとか、今日はこの部分で、例えば五平餅を作ってもらおうと思うのですが、五平餅食べてお米って美味しいなって言ってくれる子が増えたとかそういう自己効力感っていうと大きですけども、一つ一つやったことに対して何か効果があったっていうことを繰り返していくと変わっていくのかなっていう風に思います。

私も松原中学校区の小学校に勤務したことがあるんですけども、やはり地域の個性といいますか農業が非常に盛んで、皆さんすごく頑張っていらっしゃる地域の個性を生かすということに、中学校の子どもたちも一緒に参画できるということを喜びですとか、あと 5 歳児さんに笑顔になってもらえる喜びですとか、そういった交流を繰り返して繰り返してやっていくことは大事なんだろうなという風に思って、あの素晴らしい取り組みを聞かせ

ていただきました。大人も子どももちよつとずつやってよかったなって思うことが増える  
と良いなと思います。手前味噌ですけれども、私の学校でもこの前ミシンの学習ボラン  
ティアに来ていただいたんです。初めはそんな学校で教えられませんっておっしゃって  
いた方が、おっしゃる通り先ほど G 委員がおっしゃったみたいに口コミとか、LINE とか  
で来てくださって、こんななったらできますわ、また楽しかったし来たいですっていう  
風におっしゃってくださいました。そういう人が増えることが、地域で関わりを持つ  
人を増やすことになるのかなと感じさせてもらったところです。

#### 【委員長】

全体のまとめのような話をさせていただいてありがとうございます。

他 1、2、3 関わらず全体を通して最後これだけは言っておきたいということがあり  
ましたらお願いします。

#### 【H 委員】

A 委員のミシンボランティアは私違う会で報告を受けていまして、5,6 年生のミシン学  
習ということ聞いています。あと他の学校でも去年の秋から Sigfy の利用をされていま  
して、ただ登録されていても保護者と一部の関係機関の人しか関わることができず、あ  
の中の発信で、地域でこういうことをお手伝いしてもらえる方をお願いしてまするとい  
うことは関係者しか見れないのですが、そういうことで子どもたちの見守り活動とか、  
学校公開日での参観に行ったりとかで、小学校とか中学校でこういう学習をされてい  
るんだということが良く分かると同時に、さっき BohNoさんと子どもたちの関わり  
のことをおっしゃっていましたが、やっぱり距離感だと思うんです。私よく中学校の授  
業を見させていただいて、私が中学生のときはかなり昔の話なんですけども、その  
ときの先生と生徒との距離感に比べて今の先生と生徒との距離感はかなり近くな  
っている。ただ、友だちになったらいけないので、そこは先生としてちゃんと立  
場をわきまえないといけないのですが。今年の春中学を卒業された子どもさんと  
喋ったら、卒業して〇〇先生に会いたいとかって言うのは、やっぱり先生に会  
いたいっていうのが私たちなかなか無かったのが、今の子どもたち卒業して  
も中学の先生に会いたいとか小学校の先生に会いたいということをよく聞く  
ので、やっぱりその先生と生徒さんとの距離感っていうのはすごく大切だ  
なというのは感じました。だから地域においてもそういう距離感を持って子ども  
たちとか大人と接するのは難しいですけども、やっぱりその距離感はずごく  
大切やなと、そこが活動に関わっていく中でポイントになってくるなと私は  
感じました。

#### 【委員長】

ありがとうございます。では、他ございますか、よろしいですか。

はい、一通り御意見も出していただいたということで、この振り返り、ま  
とめについて

はこれで終了ということにさせていただきたいと思います。

では、あとは事務局の方でお願いいたします。

---

## 6 その他

---

(3回目の委員会について説明)

---

閉会

---

**【事務局】**

閉会挨拶